

# 支店長の わがまち紹介 第78回



あやめ園

## 潮来市

筑波銀行は地域金融機関として、地域の皆さまとの密接な繋がりを持たせていただいております。「支店長のわがまち紹介」は、筑波銀行の支店長が所在エリアの市町村をご紹介させていただくコーナーです。

今回は茨城県潮来市です。潮来支店長が潮来市長 原 浩道氏にお話を伺いました。

潮来市は「筑波経済月報」第35号(2016年6月)本コーナーにて紹介させていただきました。改めまして、潮来市の魅力や特徴、展望についてお聞かせください。



潮来市長 原 浩道氏



潮来支店長 石川 昌勝

### ■ 逆水門の開閉で「潮」の「来」るまちへ

現在の潮来市からは想像もできないかもしれませんが、「潮来」という名前のおとりに、昔はこの辺りまで潮が来ていました。

江戸時代、水運の要衝だった本市には、東北から米や海産物、木材などを載せた大きな船が頻繁に出入りしていました。まちの至る所に水路が張り巡らされ、小さな舟も行き来していました。

昭和に入り、堤防を作って湖を埋め立て、多くの住宅が作られたことで、本市は鹿島臨海工業地帯のベッドタウンとして発展しました。

また、周辺地域は、利根川の逆流でたびたび洪水が発生していたこともあり、常陸利根川に逆水門を設置して水位を調整することで、霞ヶ浦の氾濫や塩害を防止するとともに、農業や工業、生活に必要な水源を確保しました。

しかし、逆水門を設置したことで霞ヶ浦は淡水化し、ウナギを中心とする本市の漁獲量は年々減少、現在は最盛期の20分の1にまで減少しています。さらに、汽水域に多く生息するヤマトシジミも激減してしまいました。

このようなことから、塩害に気を付けながら逆水門を開閉するなど、逆水門の柔軟な運用に向けた働きかけをこれからも行っていきたいと考えています。

### ■ 「鹿島の本宮」と呼ばれる<sup>おおう</sup>大生神社

市民以外の方にはあまり知られていませんが、本市には、鹿島神宮と同じく<sup>たけみかづちのおかみ</sup>健御雷之男神(武甕



大生神社

槌大神)を祭神とする「大生神社」が所在します。創祀年代は詳らかではないものの、大和国の飯富(オフ)一族が常陸へ移住する際に氏神として祀られたことが始まりといわれています。

また、近くに所在する県内最大規模の古墳群「大生古墳群」は、鹿島神宮と密接な関係にあったオフ氏一族の奥津城おくつぎと考えられていることから、鹿島神宮との関係の深さをうかがい知ることができます。

毎年11月の第3日曜日に行われる例祭では「巫女舞神事」が奉納されています。七人囃子の奏楽にあわせ、鈴を振りながら厳かに舞う姿からは、幾代にもわたり受け継がれてきた神と人との関わりを感じることができます。大生神社の巫女舞は、古式の姿で保存されている珍しい神事であり、大変貴重な存在です。

### ■ 古民家の宿「磯山邸」からまちの魅力を発信

市内中心部を流れる前川は、江戸時代「津軽河岸」や「仙台河岸」など東北諸藩の河岸があり、東北地方から江戸へ物資を運ぶ中継地として栄えた河岸跡が残る水郷潮来の象徴的な親水空間です。その一つである「津軽河岸」にある、古き良き時代の潮来の佇まいを残した古民家「磯山邸」は、2008年、持ち主が東京へ移住する際に本市に寄贈されました。

磯山邸は2017年の改修を経て「水郷旧家磯山邸」としてオープン、2019年5月には、津軽河岸の景観整備も完了し、船着き場と「津軽河岸あと広場」が整備されました。

磯山邸は、古民家の宿として、既に、ブロガーをはじめとする古民家に興味を持つ方々にご利用いただいています。なお、津軽河岸あと広場内にある石の蔵は、現在、飲食や物販などのテナントを募集しております。

津軽河岸あと広場は、毎年5月下旬から開催される「水郷潮来あやめまつり」の会場である「水郷潮来あやめ園」に歩いて行ける距離にあります。また、あやめ園近くにある長勝寺では、美しい日本庭園を眺めながら抹茶をいただくことができます。さらに、江戸時代より続く「愛友酒造」では、酒蔵見学や権入れ、きき酒などの体験も可能です。

そのほかにも、本市には年間を通してたくさんのイベントがあり、先に述べた大生神社や大生古墳群をはじめとする歴史ある文化財も数多く所在するため、外国人観光客にも喜んでいただけると考えています。

そのため、今後は、磯山邸を中心とする津軽河岸跡周辺を観光拠点として情報を発信し、あやめまつりだけでなく年間を通じた本市の魅力をアピールしていきたいと考えています。

しかし、磯山邸1棟だけでは、多くの観光客を呼ぶことはできません。まずは磯山邸の年間稼働率を高め、これを良い例として民泊を進めていきたいと考えています。

また、市内には、明治から昭和初期に建築された立派な空き家がたくさんあるため、民泊施設として活用できる仕組みを構築できれば、全体の宿泊者数を増やせるのではないかと考えています。



水郷旧家 磯山邸

### ■ バスターミナルの整備で観光・交通の要衝へ

道の駅いたこは、「進化する多機能型道の駅」となるため、「まちづくり観光事業部」を創設し、従来の物販拠点機能に加え、「水郷潮来バスターミナル」やあやめ園、磯山邸、津軽河岸あと広場などの観光拠点を連携・活用した経営を進めています。

2019年1月には、観光振興や子育て世代支援、災害時の防災拠点としての整備など水郷潮来

バスターミナルとの一体整備の企画提案が評価され、国土交通省より「重点『道の駅』」に選定されました。これにより国・県などとの連携及び支援を受けながら、バスターミナルの整備も含め道の駅いたこの充実強化を進めています。

本市は都心から東関東自動車道経由で入ってくると、茨城県の東の玄関口にあたり、バスターミナルは、他の鹿行地区に向かう際の交通の結節点になっています。

そのため、バスターミナルから様々な方面へ定期便のバスが運行されれば、県内各地への公共交通がよりスムーズになると思っています。イメージとしては、東京駅の八重洲口のような感じです。

本年度、バスターミナル駐車場の拡張整備を進めています。今後、レーンの増設や待合所の改修のほか、「つくば霞ヶ浦りんりんロード」の起終点でもあるため、自転車利用者のための施設などの整備も計画しているところです。



水郷潮来バスターミナル

### ■ 年間を通した船の運航でまちを活性化

道の駅脇の用水路を綺麗にして、道の駅から津軽河岸、あやめ園へと船で行き来できるようになれば、船でまちの中へ入れるようになり、人の流れも観光にも有効だと考えておりました。

元来、道の駅設置の計画当初より、道の駅前から船でまち中に入ることを決めていましたが、思うように河川拡幅が進まず、近年は諦めかけていました。

今回、池の水をきれいにして、池本来の姿を取り戻すという趣旨のテレビ番組で水を抜いたことで、計画が進みそうです。

水を抜くことに対して反対意見もありました

が、不法投棄も多く、船を浮かべられるような状態ではなかったため、決断しました。実は今回水を抜いたその先も3kmほど用水路が続いているため、段階的に整備していきたいと考えています。

「水郷のまち」として、本市の観光を盛り立てていくために船の運航は非常に大切です。しかし、船頭組合の方々も高齢になるなど、課題を抱えている状態です。

そのため、道の駅で人材の育成をしながら、商工会とも協力して、水運観光の出来る事業母体に育てていかななくてはなりません。そして、現在は一定の時期だけにとどまっている船の操業を、年間を通して行いたいと思っています。

### ■ ホテル誘致で宿泊しやすいまちへ

潮来市の多くの宿泊施設は古き良き旅館のようなスタイルです。しかし、近年はビジネスホテルのような、気兼ねなく宿泊できるホテルの方が人気があるのではないのでしょうか。

また、現在、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の事前キャンプ誘致を行っていますが、本市が選ばれるためには解決しなければならぬ課題があります。

それというのも、外国人選手はみな背が高く、さらにベッドを希望しているからです。本市には、ベッドがあって、なおかつ長身の外国人に対応できるようなホテルはあまりありません。

成田空港を利用する外国人の宿泊先は成田市内が多いのですが、わざわざ潮来市まで足を運んでくれる方が少ないのです。そのため、受け皿となる外国人向けのホテルを誘致したいと考えています。そのようなホテルができることで、見どころの多い本市に宿泊してみようとする方も増えるのではないかと期待しています。

### ■ 筑波銀行に期待することは何ですか

企業向けの貸付や住宅ローンなどにしっかりと対応していただき、感謝しています。

今後はまちづくりの企画・経営においてどこかの部分に資本参加するなど、一歩踏み込んだ支援を期待しています。

取材日：2019年11月19日

写真提供：潮来市